

事務事業チェックシート

事務事業No 138 事業名 水源地保護事業（市民の森）

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	4	自然と共生する環境にやさしい社会の形成
施策	1	環境の保全
取組方針	2	自然環境の保全と創造

事業種別	継続		
事業期間	～		
事業実施の根拠法令			
関連個別計画	和歌山市環境基本計画		
担当課・担当課長・Tel	環境政策課	中西 克之	435-1114
関連課	企画課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		衛生費	
	項		環境保全費	
	目		環境保全政策費	
	大事業		環境保全政策事業	
中事業		水源地保護事業		

1 事業内容

事業目的	（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か） 吉野川・紀の川の水源地にある奈良県吉野郡川上村と協定を締結し、貴重な水資源の保全を図る。		全体事業概要 川上村との協定 ①豊かな水環境を保全・創造していくために流域市町村に呼びかけ、広域的な連携 ②「和歌山市民の森づくり」の実現 ③水源地環境保全事業の重要性を啓発するための人的交流 ④さらに連携を強め、吉野川・紀の川の豊かで美しい水を供給維持していくため、一体的な総合施策の推進。 に基づき、市民に啓発するため次の事業を行う ・市民の森管理事業委託 ・川上村「森と水の源流館」等での学習会			
	事業内容	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
和歌山市民の森3haを管理源流体験学習会の開催		和歌山市民の森3haを管理源流体験学習会の開催	和歌山市民の森3haを管理源流体験学習会の開催	和歌山市民の森3haを管理源流体験学習会の開催	和歌山市民の森3haを管理源流体験学習会の開催	

2 事業コスト

事業費等（千円）	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	2,545	1,506	2,562	1,514	1,607	1,217	1,607		1,607	
伸び率（%）	-	-	0.7%	0.5%	▲37.3%	▲19.6%	0.0%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	1,841	1,834	1,841	1,693	1,527	1,685	2,183		2,183
	正規職員以外									
	小計	1,841	1,834	1,841	1,693	1,527	1,685	2,183		2,183
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源（税等）	2,501	1,506	2,562	1,514	1,607	1,217	1,607		1,607	
所要人数（人）	正規職員	0.22	0.24	0.22	0.22	0.19	0.21	0.27		0.27
	正規職員以外									
主な予算内訳	業務委託料1,271千円、自動車借上料300千円									

3 目標及び実績

指標名	単位	目標値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
活動指標 森づくり体験会等開催回数	回	目標値	2	2	2	2	2
		実績値	2	2	1		
		達成度(%)	100.0%	100.0%	50.0%		
成果指標 森づくり体験会等参加者数	人	目標値	80	80	80	80	80
		実績値	70	72	33		
		達成度(%)	87.5%	90.0%	42.5%		
市民の森の面積（累計）	目標達成しているため削除	目標値					
		実績値					
		達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む		緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)		達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない		見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	水源地の確保は長期的な事業であり、直接の効果が見えにくいだが、継続して水環境保全の重要性を啓発することにより、地球環境の保全に繋げていくことが必要である。
見直し・改善内容	